別紙様式1

平成31年度　学校評価表

（ 中間 ・ 最終 ）

学校名　三原市立第五中学校

a 学校教育目標	豊かな心と表現力を養い，仲間と共に社会貢献できる，たくましい生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）　社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】（自校の将来像）　「生きる力」を育み，社会貢献できる生徒の育成

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力の育成	主体的な学びを促す授業づくりにより，思考力・判断力・表現力を育成する。	指導方法の工夫・改善	「めあて」に対応した「まとめ」「振り返り」を行う。 話し合い活動を充実させるための指導の視点を共有する。	生徒アンケートの肯定的回答率 （課題の設定，学習過程，振り返りに係る設問）	80%	84%		105%	A	「授業・単元のはじめに見通しをもてている」87% 「自分の考えを積極的に発言している」79% 「振り返りでわかった所を考えている」88% 学習意欲喚起につながっているが，すべての生徒の意欲を向上させる方策が必要	16%の生徒の学習意欲喚起に向けて，「学習過程」で生徒同士が主体的に関わり合い、協働的に学び合うことができるような指導改善	○			・授業時間の中での振り返り学習や，家庭学習の充実の中で，基本的な事柄がしっかり生徒に身につくと思います。その部分と「活用」記述が車の両輪のごとく動かせるようになるとよいのですが。
				教職員アンケートの肯定的回答率 （課題の設定，学習過程，振り返りに係る設問）	80%	87%		108%	A	「課題の提示」100% 「学習過程」87% 「振り返りの充実」75% 授業・単元の終わりの「振り返り」の項目が80%を越えていない。その時間や単元で学んだことの振り返りをすることの意義を踏まえ，全教科で組織的に実施することが課題	・教務部で全教科担当者に実施状況を確認 ・「振り返り」をさせる視点を与えたり、例を示すなどして，短時間で振り返りができるようにする	○			
		◎思考力・判断力・表現力の育成 ↓ 学力向上	「活用」記述式問題を作成・実施・評価する。 活用の中で知識を習得させる授業づくりを行う。	「活用」記述式問題でB評価以上の割合	70%	53%		75%	C	定期試験等で行った「活用」記述式問題の検証結果は，B評価(学習目標の達成ライン)53% 単元構想でB評価の「概ね満足できる状態」を設定し，テストで成果が表れるような指導を行う	・学力調査等の「活用」記述式問題分析 →まず授業者が理解→生徒に慣れさせる ・問題形式・内容を参考に，各教科で問題作成と評価規準（基準）設定 定期試験や単元テストで出題，検証	○			
				標準学力調査の正答率が全国平均以上の割合 ＜全教科・全学年（15）＞	100%	ー （未実施）								○	
たくましい心身の育成	自己指導能力の育成 （自ら考えより良く判断し行動する生徒の育成）	生徒会活動の充実	生徒会活動を中心に，生徒の主体的な取組を充実させ，いじめ撲滅や絆づくり等に取り組む。 地域等への貢献活動を促進する。	学校生活満足度についての生徒アンケートの肯定的回答率	90%	95%		106%		「学校へ行くのは楽しい」というアンケートの肯定的評価が5月から1パーセント上がった。 いじめの積極的認知の観点から，今年度いじめが2件発生したが，早期の取組により解消された。 やっさボランティアの参加人数が36人と積極的参加が見られた。	・いじめ防止基本方針の周知徹底，いじめ発生時の対応を全教職員で確認 ・特別の教科道徳，学級での協働的な活動，いじめ撲滅に向けた生徒会活動を通して，いじめを許さない，発生させない取組を計画的に進める。	○			・不登校生徒の減少は大変うれしいことです。「0」にするのは非常に難しいかと思います。全教職員の生徒一人ひとりを大切にする取り組みの更なる充実を。
		特別支援の充実	定期的に会議を開催し，不登校及びその傾向にある生徒に対する手立て等を検討し，組織的に取り組む。	不登校生徒数の全校生徒数に対する割合	3%	1.5%		150%		全校生徒における不登校生徒の割合1.5% 生徒指導・教育相談委員会の定例開催(月2回)で，不登校生徒への個々の支援・取組の方向性を協議した。	・家庭との密な連携，関係機関との連携等，より組織的な対応を進めていく。	○			
働き方改革の推進	子供と向き合う時間の確保と長時間勤務の縮減	業務改善	学校経営会議のリーダーシップのもと，学校行事等の内容の見直しやスリム化を図るとともに，業務改善を促進する。	見直し，スリム化，業務改善が実行できた事項	学期に3つ以上	4つ		133%	A	生徒指導委員会と教育相談委員会の統合。 日課表の変更（朝読廃止・水曜日掃除廃止）。 部活動休養日と定時退校日の設定。 起案文書の管理・保管場所の統一。	業務内容をスリム化できる案を募集し，学校経営会議で検討し，実現可能なものは業務改善をしていく。	○			・水曜日の掃除時間の廃止によって，生徒たちの主体的な美化意識の育成が出来るとよいですね。
		意識改革	組織的で計画的な業務推進とワークライフバランスの意識化を促進する。	定時退校日（部活動休養日）に17：15までに退校できた教職員の割合	90%	71%		79%	C	4月平均69.7%，5月平均78.8%，6月平均71.5%，7月平均61.3%，8月平均74.9%，9月平均71.5% 日程を変更し，定時退校しやすい工夫をしたが，学校行事や定期試験等の期間は，定時退校に対する意識が低かった。	ワークライフバランス・業務の終了時間を意識し，計画的な業務推進を行う。	○			

【ｊ：自己評価　評価】
Ａ：100≦（目標達成）　　Ｃ：60≦（もう少し）＜80
Ｂ：80≦（ほぼ達成）＜100　　Ｄ：（できていない）＜60

【ｌ：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。
ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。